

四谷の

千枚田だより



第 49 号

千枚田 黄金田に群れる
赤トンボ 岡崎市 三浦良子
手塩かけ 稔る稲穂や
千枚田 浜松市 木通佳子

棚田サミット参加報告

八月二十四(金)、二十五日(土)の両日、栃木県茂木町で開催された第十三回全国棚田(千枚田)サミットに四谷の千枚田から三十名が参加しました。その概要を報告します。

■ 棚田現地見学

入郷名畑の棚田

地区人口 百十一名 三十八戸
農家戸数 十二戸

棚田の規模 四・九畝 百八十七枚
特徴：水田は沢水を引水、法面が土波で落葉広葉樹の谷間に比較的緩い傾斜地にある。

活動内容：平成十二年に「入郷棚田保全協議会が組織され、県のボランティア事業「とちぎ夢大地応援団」、中山間地等直接支払制度などを活用、棚田保全活動を実施している。平成十四年から棚田オーナー制度を開始。棚田米で醸造した「棚田の雫」を販売するなど、棚田の利活用を促進している。

自然を活用したふるさとづくり

この地区は集落の荒廃が進み、訪れるのは郵便局員くらいであった。田畑も荒れ、嫁も来ないこの里になんとか人を呼ぼうと全戸参加で昭和六十年に三千本の「ゆず」を植え、平成元年、ゆずの木に実ったのを機に「大ぼら吹き大会」など数々のイベントを企画、平成五年にはゆずの木一本一円の一萬円のオーナーになってもらう「ゆずの里かおり村」を開設、九十八人の村民も今では九百三十八人、来訪者は年間二万人を数え、十六戸の村に六人の嫁と一人の婿がやってきた。この成功の事例から、里に埋もれている自然・天然を掘り起こし活用しながら、来訪者のために里を様々な形でデザインすることに取り組んでいる前進的な姿が村内、村民から大きく望まれた。

国見の棚田

地区人口 三十五名 十二戸
農家戸数 七戸

棚田の規模 二・二畝 五十枚
活動内容：中山間地等直接支払制度

などを活用、棚田保全活動を実施している。平成十六年度から「とちぎ夢大地応援団」活動事業に取り組み、三十、四十人のボランティアを県内外から受け入れ、共同で棚田周辺の環境美化作業を行っている。美しい棚田と保全と「鯉のぼりと棚田」や「みかんの棚田」の景観を残しながら後世に引き継いで行きたいと頑張っている。

栃木県では「残したいとちぎの棚田21」を認定、棚田保全に力を入れている。

政策提言

古口達也茂木町長

イノシシなど鳥獣による農作物の被害が全国的に年々増大する中、茨城栃木県でも深刻な状況に見舞われている。イノシシ対策は市町単独で猟友会の協力による捕獲や農家自らが防護柵の設置を行なっているが、予想をはるかに越えるイノシシの勢力拡大により、被害対策が追いつかない状況で、抜本的対策が求められていた。そうした中、本年二月にイノシシ被害に悩みを抱えている十二市町で「茨城栃木県境地域鳥獣害防止広域対策協議会」を立

ち上げ、国庫補助金である鳥獣害防止広域対策事業を活用し被害対策に取り組むことにした。今年度の主な活動計画は①各市町で異なる捕獲期間を統一して広域的な捕獲・追払いの推進と新たな捕獲方法の実証②区域内の被害状況を把握するための情報収集と情報マップの作成③関係住民への研修会や啓発活動の三点を中心に進めている。

しかし、被害の根幹は、山村の過疎化、高齢化による森林の荒廃がもたらす獣と人間の住み分けの崩壊にある。本サミットを通じ「自衛隊による有害鳥獣駆除」をと大胆な政策提言が行われた。

当夜、テレビで自民党は「イノシシ対策に自衛隊の出動も視野に入れている」と報道されていた。



全国の一千人を超す棚田関係者が一堂に会いし、互いに情報を交換し、交流を深め、棚田保全の意義や必要性を理解、励ましあえるサミットへの参加は「四谷の千枚田」を柱に地域のさらなる持続活性化につながる大きな勉強の場であったことを報告します。また、参加について理解(助成)のある市民の皆さんにお礼申し上げます。

案山子登場!

九月五日(水)、連谷小学校児童十名は親子で作った案山子十体を千枚田の学校田や景観道に立てました。今日から稲穂を食べるスズメを追払ったり田んぼを荒らすイノシシの脅しで大活躍することと思います。



稲刈り体験

九月八日(土)、「三河の山里ツアーズム」に応募した名古屋市などの十五人がシリーズ最終の稲刈りを体験しました。この事業は「三河の山里活性化事業実行委員会」が都市、山村の交流促進のため開催、参加者



は小山舜二(ふるさと指導員)の指導で五月に田植え、七月に草取り、そして、この日に稲刈りを無事迎え、稲の生長の早さと、黄金色に実った稲に感慨ひとしおでした。また、毎回の昼ごはん、田舎料理が大変好評でした。おっ母さんありがとうさま

中島先生俺んどの棚田へ!

九月九日(日)、棚田学会、棚田ネットワーク等の会長さん、棚田関係の多くの著書を出版、棚田の保全の第一人者である先生が「恵那プロジェクト・かえるのビオトープ作りと棚田見学」の帰路、サミットでおなじみの相田さんや木戸さん達と訪れました。

「先生が来ただけで、皆んなおいでん」と声を掛けたら写真のように大勢すっ飛んできました。

ふれあい広場で棚田米のおにぎりを頬張りながら皆んなで勝手気ままなひとときを過ごしました。



棚田ネットワークの皆さんと

1000年の杜へ稲藁を

横浜ゴムKKは新入社員研修を四谷の千枚田でボランティア活動(ふれあい広場の環境整備等)を行うなど、地域密着な協力をいただいている。横浜ゴムは国内における環境貢献活動十位以内に評価された優良企業である。今回は、CO2の削減を図るため会社敷地内に1000年の

杜を計画、ドングリを種蒔きから育てる長期的な計画が盛られ、トップレベルの環境貢献企業を目指している。その一環として環境に優しく育てられた千枚田の稲藁をドングリの敷藁として活用したいと相談がありました。戸々の水田面積が少なく、生産性に欠ける千枚田の耕作者にとっては願ってもない話で、ぜひ、皆さんの協力をお願いしたいと思います。

掲示板

■九月二十六日(水)、連谷小学校学校田の稲刈り作業が行われます。■九月二十九日(土)、みんなの奥三河(シリーズ)の稲刈り体験が田吾作の田んぼで行われます。

■十月十日(水)、アストラゼネカ社(社会貢献度一位)一〇五名が千枚田の支援活動として訪れ、ふれあい広場や周辺の景観整備、植栽、藁撒き等農作業のお手伝いが行われます。また、昼食を皆さんで地元住民との交流会も行われます。

■十月十四日(日)、ふるさときやらばん公演「地震カミナリ火事オヤジ」が新城文化会館で行われます。保存会後援ですので、ぜひ観覧を

行 平成十九年九月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文責 小山舜二